

◎ 就業構造の状況変化～増え続けた非正規雇用 ♪

★「就業構造基本調査」にみる就業状況の変化 ★

平成 25 年 7 月 12 日公表の総務省統計局「平成 24 年就業構造基本調査」のデータをもとに、その 5 年前（平成 19 年）に行われた調査結果及び過去 20 年間の変化について比較検討してみたい。

◆平成 24 年基本調査による 15 歳以上の就業状態

		5 年前比	(男 性)	(女 性)
有業者数	6,442.1	155.7 減少 ↓	143.0 減少 ↓	12.7 減少 ↓
無業者数	4,639.4	207.0 増加 ↑	156.1 増加 ↑	51.0 増加 ↑

(単位；万人)

有業率		5 年前比
男 性	68.8%	2.8 ポイント ↓
女 性	48.2%	0.6 ポイント ↓

平成 24 年 10 月時点 正規・非正規雇用者数

正規・非正規雇用区分	雇用者数	比率
正 規 雇 用 者 数	33,110,400 人	61.85 %
非 正 規 雇 用 者 数	20,427,100 人	38.15 %
合 計 雇 用 者 数	53,537,500 人	100 %

◆非正規雇用者比率の推移

- ・非正規雇用者の割合は38.2%で男性22.1%、女性57.5%で男女ともに上昇が続いている。

- ・55歳以上の非正規雇用者の割合は5年前の調査に比べると男性6.4ポイント、女性は6.1ポイントとその上昇が著しい。

次に平成4年と平成24年の過去20年間の状況について非正規雇用比率を比較してみると、常に女性は男性の約2倍程度高くなっており女性だけでなく男性も上昇している。

- ・年齢に注目してみると平成4年当時、20歳代の非正規雇用者の比率が相対的に少なかったものの、20年間で倍増しており、平成24年には30～54歳の壮年層を上回っている。

- ・過去5年間の雇用形態間の異動を見ると、正規から非正規への異動割合が上昇している。

- ・若年（15～34歳）人口に占める若年無業者の割合は2.3%で5年前に比べ0.2ポイント上昇しているが若年無業者は61万7千人で5年前に比べ1万5千人減少している。

- ・業種別にみると、製造業よりも非製造業での上昇が大きい。

- ・規模別では、もともと中小企業で非正規雇用者が多かったが、この20年間で大企業でも著しく増加している。

- ・学歴別では大卒以外での非正規雇用の増加が特徴的である。

- ・非正規雇用者の内訳をみると「パート・アルバイト」約70%、「契約社員」約14%、「派遣社員・嘱託」約6%を占めている。

- ・雇用契約期間別では3年未満が大多数で6～12ヶ月が約40%、1～6ヶ月約27%、1～3年が約15%となっている。

以上の調査データから、平成 24 年度の調査時点までの日本における雇用状況は性別や年齢、業種・企業規模を問わず、非正規雇用が増加しており、特に女性、高年齢層及び若年層又中小企業だけでなく大企業の雇用者についても非正規雇用が増加していたことを指摘できる。

総務省統計局の「平成 24 年就業構造基本調査結果の概要」の内容については次のリンクでご確認ください。

<http://www.stat.go.jp/data/shugyou/2012/index2.htm#kka>

(小山労務管理事務所 2014/08/08)